

江草校友会会長インタビュー 「チャレンジ精神で飛躍を」

校友会長に江草忠敬氏(35社)が就任して3年が経ちました。就任時の様子と現在、そして今後の展望などをお聞きしました。

―校友会長に就任された当時を振り返っていかがですか？

学校経営がいかに大変かを痛感しました。大学の校友会が学院の組織の中に入り、流れが少し変わったと感じています。

校友会は大学にとっての財産です。愛校心を持った皆様と組織的に運営していくという初心は今も変わりありません。

―現在、力を入れていることは？

おかげさまで、ホームカミングデーも年々来場者が大幅に増えています。大学側の理解を得て、いろいろな場所を提供していただいたことも大きいと思います。

また、16地区で行われた地区校友の集いもほぼ参

加しました。会社の現役時代、営業で日本中を回った経験が地域立教会での話作りになかなか役立ちました(笑)。

―具体的に地域立教会に對して思うことは？

会の地域差を痛切に感じました。もはや、新入会員をただ待っているだけでは発展は難しいですね。校友会本部が地域と一緒に考えて考えるべきです。イベントやミニ講座を開き、若い人が来るようになったらぜひ幹部になってもらい、若い人が若い人をどんどん呼び寄せて…というふうに。宮城立教会や湘南立教会などの活動は、とても印象に残っていますね。

やはり、若者に立教会に参加してもらうには学生のうちに校友会の存在を宣伝すべきですね。3年前からこの会報が学生にも配布されていますが、とても効果があると思いますよ。この3月には新校友会員歓迎パーティーを企画中です。

―これからの課題をお聞かせください。

地域立教会の中にも含まれますが、特に全国の女性校友の活動をいかに発

展・活発化させるかですね。女性校友はこの5年で27パーセントも増えていきます。議員の女性の数もこの先増えると予想しています。

―今年の抱負は？

135周年募金については、3月までに10億円達成を目指しています(2009年11月現在9億3000万円)。今年は関東地域の立教会にもどんどん顔を出すつもりです。

また、セントポールズ会館の存在もアピールしたいですね。校友の集いの場としてだけではなく、ゆくゆくは小中高生が立教の歴史を一覧できるスペースにしていきたいですね。

―学生にメッセージを。

私は学生時代にアイスホッケーとの出会いがあり、打ち込めるものがあって本当に良かったと思っています。友人や先輩の絆から学んだことも、社会に出たとき役立ちました。学生時代に得たものは大きいし、活かされることも多いでしょう。学生時代に社会勉強の基礎を学んでください。そして卒業しても校友会が温かく迎えてくれるということを忘れないでください。

―最後に一言。

校友数も、もうすぐ



▲「女性校友の参加も増えている」と語る江草会長

17万人突破です。もはや帯広や会津若松といった都市の人口に匹敵するくらいの人数となります。これからは、しっかりとした基盤の上に立つた組織力が必要ですね。その基盤は校友のボランティア精神で

成り立っています。ボランティアに伴う責任と権限の兼ね合いはいつも意識しています。これからも立教を愛している人たちの出会いを大切にしたいです。

インタビュー後記

就任インタビューでお会いしてから早3年。再び法律書籍出版の有斐閣を訪れました。法学部出身者としてはロビーに置いてある六法全書の前で思わず居住まいを正してしまいます。そんな緊張をよ

そに、気さくで親しみやすいお話しに予定時間を軽く1時間もオーバーしてしまいました。資料を手元にお話する姿にデータの大切さをあらためて勉強させていただきました。会報委員 町田香子(55法)

「立教未来計画」プロジェクト募金は 2年目を迎えました!!

立教学院創立135周年を記念して、2008年十一月からスタートした、総事業費約400億円のプロジェクト「立教未来計画」。

このプロジェクトを支えるために、同時にスタートした「立教未来計画募金」は5年間で総額50億円を目標としております。

一年を経過した11月末日現在の募金は、総額で約9億3千3百万円に達しました。内訳としては別表のとおりですが、経済状況の厳しい中、1281名の校友の皆様から約8500万円、地域支部や職域支部などの86団体様からは約7570万円、111の法人様からは総額3億2300万円のご寄付をいただきました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。ご芳名並びにプロジェクトの進捗状況につきましては6月と11月に発行する「立教未来計画ニュースレター」また「立教未来計画ホームページ」<http://www.rikkyo.ac.jp/135/>、

随時お知らせしてまいります。

また、スタート時には約250名だった募金委員も、この一年間に各地域立教会の幹部の方々を中心に引き受けいただき、現在では約390名となり、今後の募金活動を進めていく上で強力な体制を整えることができました。

昨年10月には、ご寄付をして下さった方々を対象とした感謝の集い「ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏」演奏会を開

催し、300名を超える方々にご出席いただき、雰囲気ある夜の第一食堂でウィーンフィルの美しい音色を楽しんで頂きました。

2年目を迎え、校友の皆様には益々のご協力をいただき、校友会と大学をはじめとする立教学院の未来を一緒に創っていただければありがたく存じます。問合せ先 立教学院募金室

03-66605-40657
bokin@grp.rikkyo.ac.jp

募金内訳

2008.11.1—2009.11.30

種別	件数	金額
立教未来計画	校友	1,281 84,926,288円
	教職員	282 50,071,000円
	一般篤志家	29 2,446,000円
	校友法人	18 57,341,600円
	一般法人	93 266,062,549円
	団体	86 75,673,746円
小計	1,789	536,521,183円
教育振興資金(保護者)	1,281	305,068,000円
指定寄付※1	247	92,085,778円
合計		933,674,961円

※1 体育会各部のOB会等の募金活動による使途指定寄付

第19代立教大学総長に吉岡知哉教授を選任



大橋英五総長の任期満了(2010年3月31日)に伴い、後任を決定する総長候補者選挙が行われ、法学部の吉岡知哉(よしおかともや)教授(56歳)が次期総長候補者に選出されました。2009年12月11日(金)開催の第832

回立教学院理事会は同選挙の結果報告を受けて、同教授を第19代総長に選任しました。新総長の就任は、2010年4月1日(木)の予定です。(次号にて就任インタビューを掲載する予定です。)